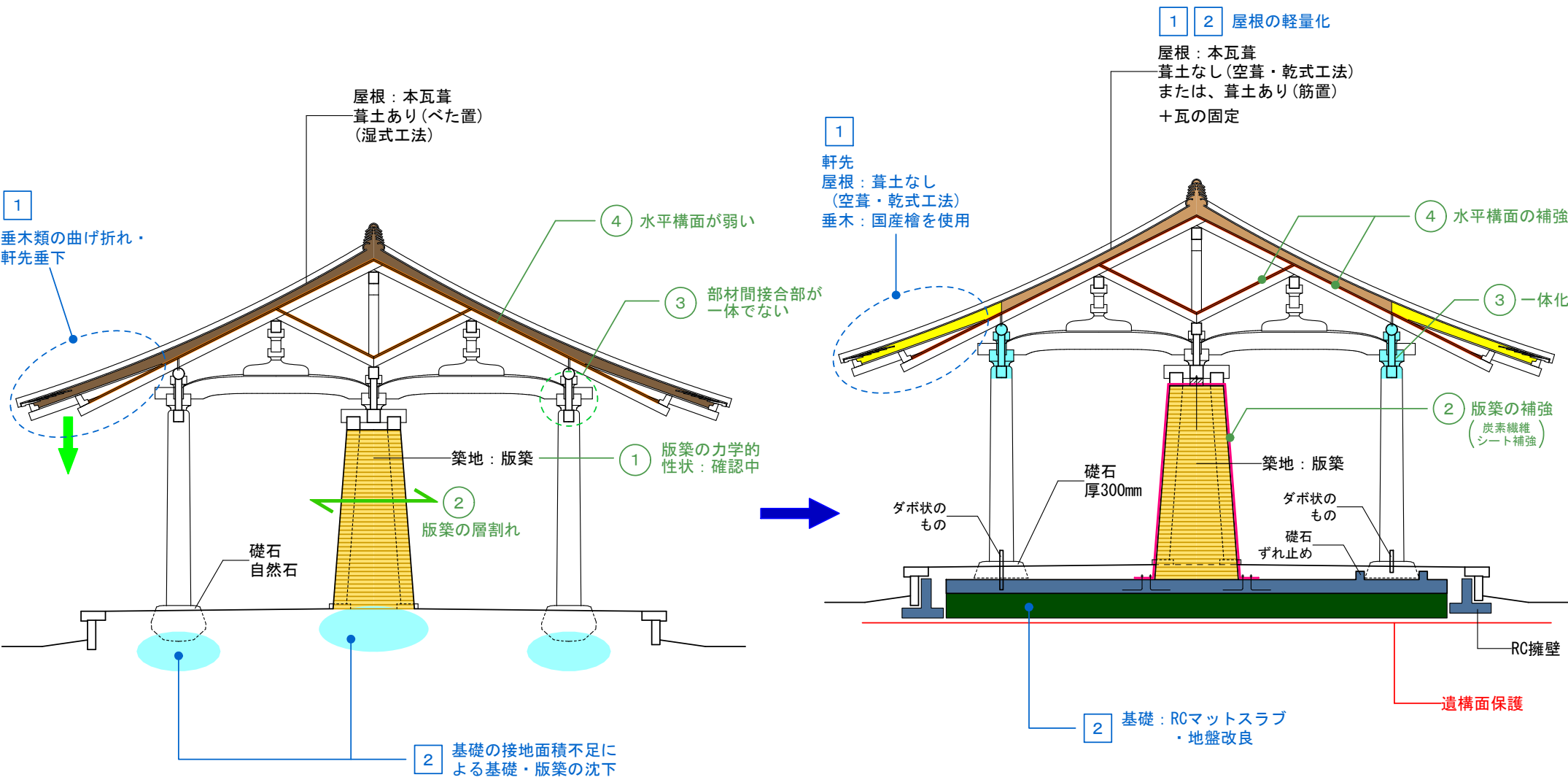




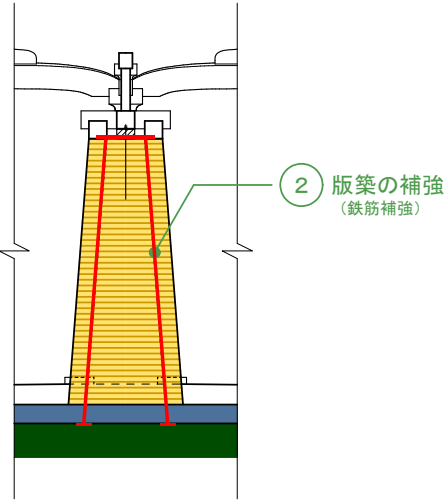
復原原案

使用材料：檜が中心。コウヤマキも混じる。

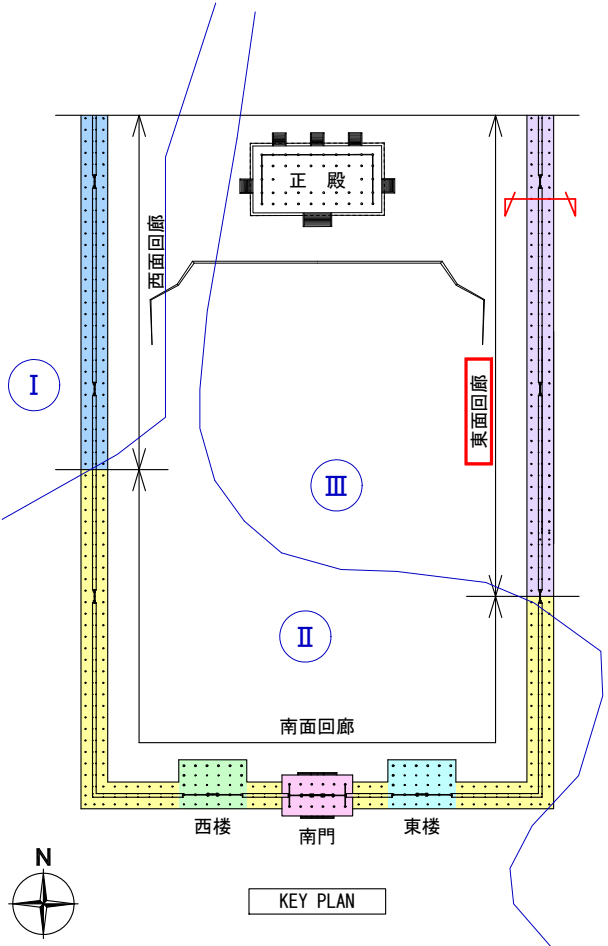
整備案

使用材料：国産檜を中心とする。一部国産杉材を用いる。

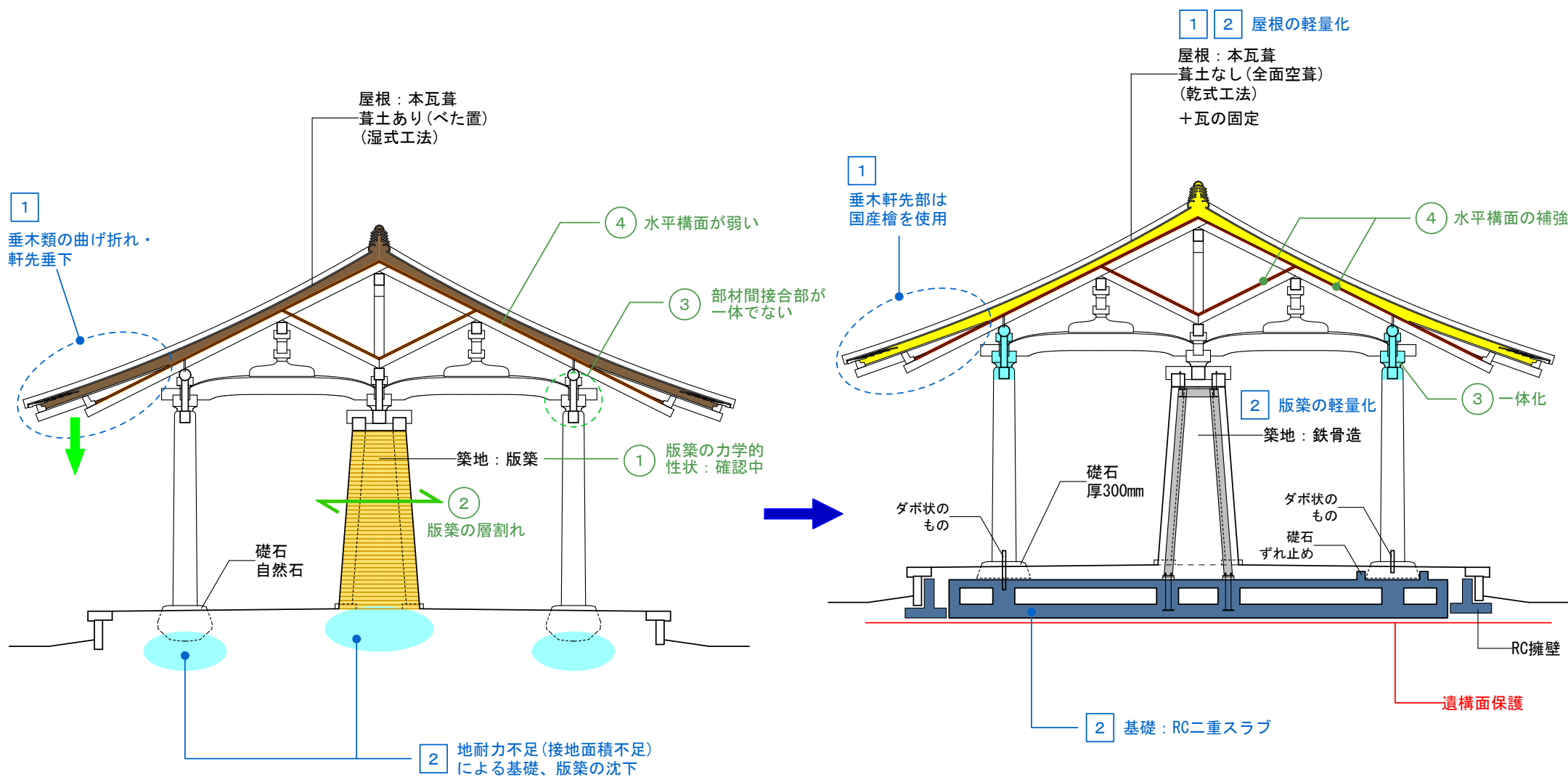
※遺構面の保護が、重要課題である。



- 与条件
 - ・地盤：ゾーンⅢ
長期地耐力82.5kN/㎡程度の安定した地盤である。
- 特記事項
 - ・構造補強は、出来るだけ見えないところで行う。
 - ・補強材は、復原材と間違われることがないような素材を使用する。



復原原案－整備案 比較図
東面回廊



復原原案

使用材料: 檜が中心。コウヤマキも混じる。

整備案

使用材料: 国産檜を中心とする。一部国産杉材を用いる。

① ② については、版築を鉄骨造としたため、解消。

※遺構面の保護が、重要課題である。

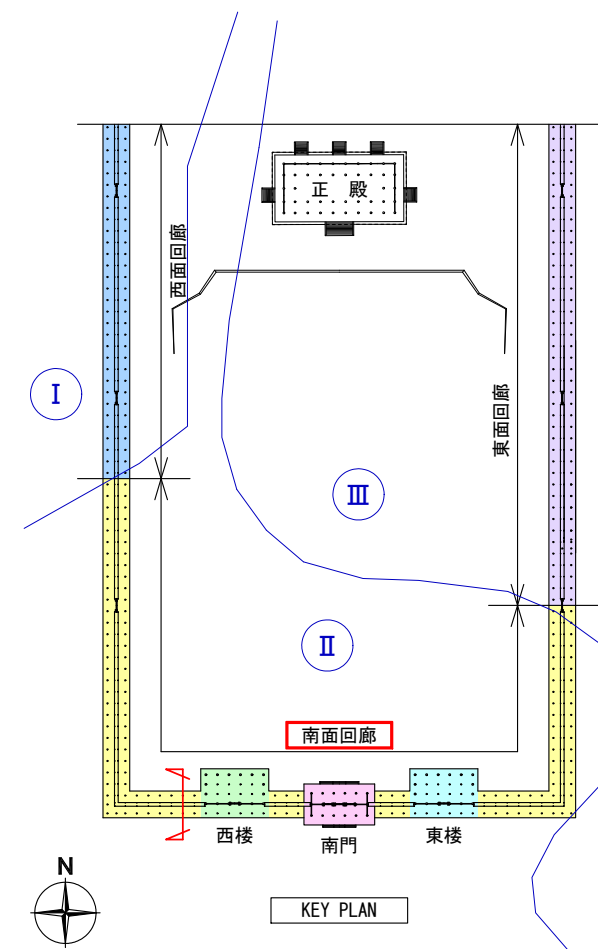
●与条件

・地盤: ゾーンⅡ

長期地耐力 38.0kN/㎡程度。

●特記事項

- ・構造補強は、出来るだけ見えないところで行う。
- ・補強材は、復原材と間違われることがないような素材を使用する。



復原原案—整備案 比較図

南面回廊

平成25年 10月 11日

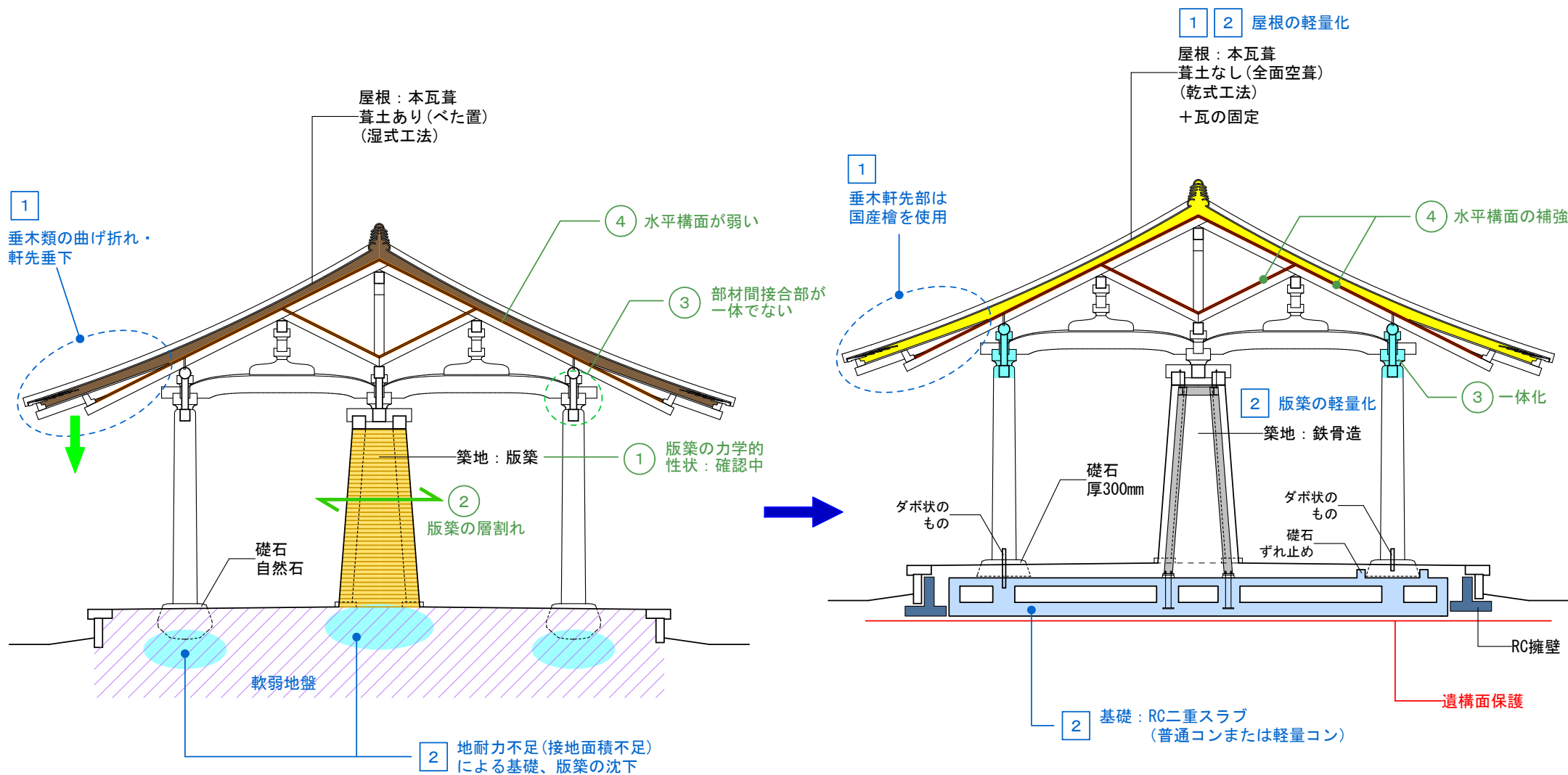
002

構造的課題 (常時)

- 1 垂木類の曲げ折れと垂下
 - ・屋根重量が大きいため、垂木類が垂れ下がる恐れあり。
- 2 地耐力不足(接地面積不足)
 - ・基礎が沈下する恐れあり。

構造的課題 (地震時)

- ① 版築の力学的性状を、1/3モデル実験により、確認中である。
- ② 版築の層割れ(実験結果より)
 - ・打ち継ぎ面が剥離し、倒壊する恐れあり。
- ③ 部材間接合部が一体でない
 - 例) 柱—大斗、大斗—肘木
- ④ 水平構面が弱い



復原原案

使用材料：檜が中心。コウヤマキも混じる。

構造的課題（常時）

- 1 垂木類の曲げ折れと垂下
・屋根重量が大きいため、垂木類が垂れ下がる恐れあり。
- 2 地耐力不足(接地面積不足)
・基礎が沈下する恐れあり。

構造的課題（地震時）

- ① 版築の力学的性状を、1/3モデル実験により、確認中である。
- ② 版築の層割れ(実験結果より)
・打ち継ぎ面が剥離し、倒壊する恐れあり。
- ③ 部材間接合部が一体でない
例) 柱一大斗、大斗一肘木
- ④ 水平構面が弱い

整備案

使用材料：国産檜を中心とする。一部国産杉材を用いる。

① ② については、版築を鉄骨造としたため、解消。

※遺構面の保護が、重要課題である。

●与条件

・地盤：ゾーンⅠ

長期地耐力20kN/m²程度の軟弱地盤である。

●特記事項

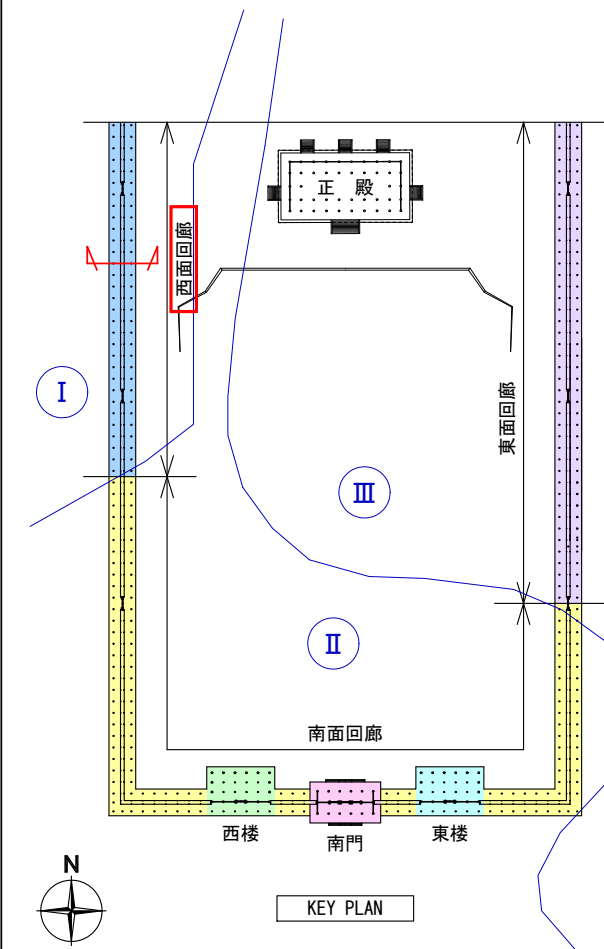
- ・構造補強は、出来るだけ見えないところで行う。
- ・補強材は、復原材と間違われることがないような素材を使用する。
- ・積載荷重に制限を設ける。（入場制限を行う）

基壇の積載荷重(N/m²)

	床 用	架構用	地震用
基壇（一般）※1	3,500	3,200	2,100
基壇（西面回廊）※2	900	650	300

※1 建築基準法施行令第85条に定められた「固定席でない集会室」の値を採用。

※2 建築基準法施行令第85条に定められた「住宅の居室等」の、1/2の値を採用。

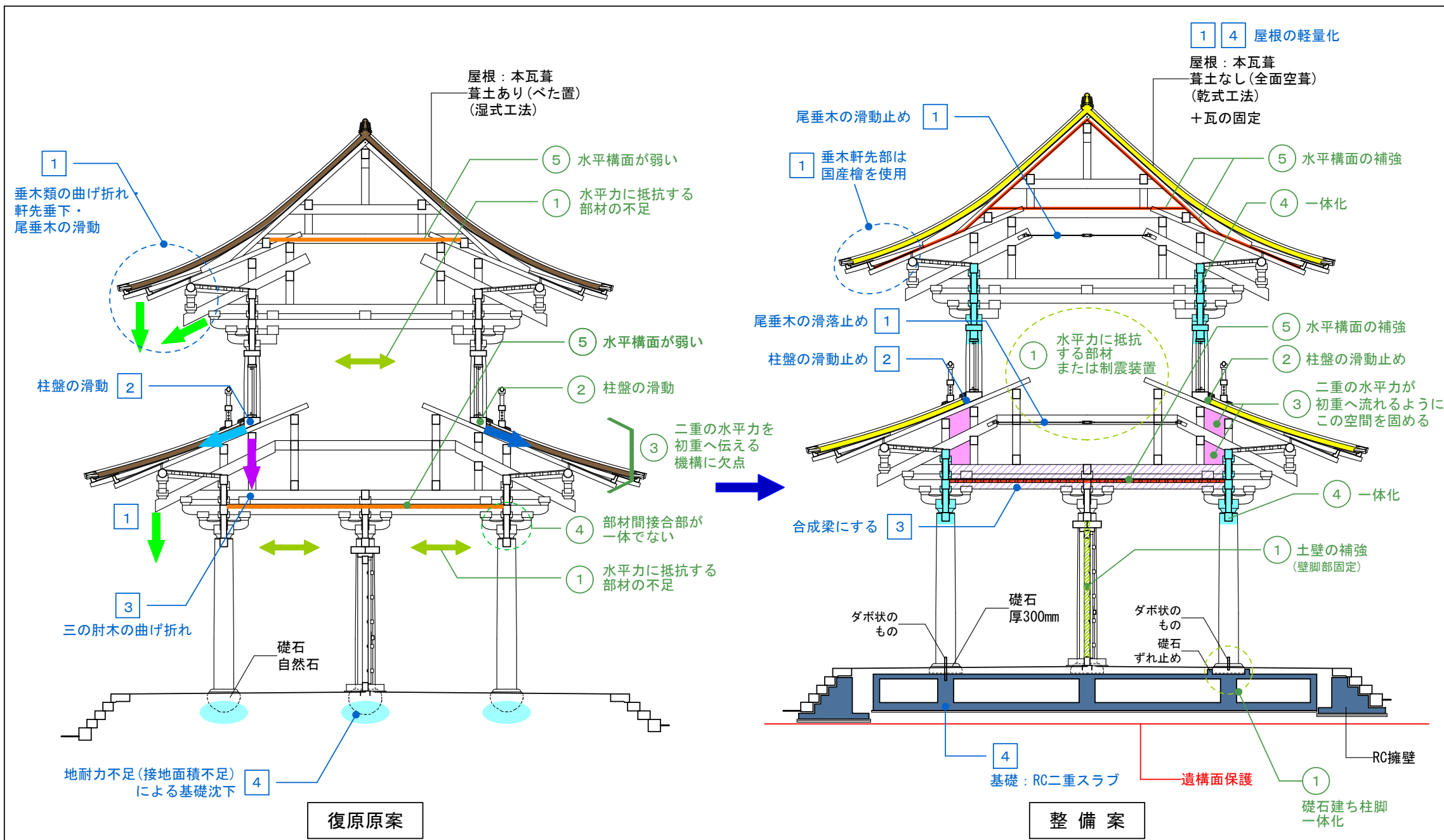


復原原案－整備案 比較図

西面回廊

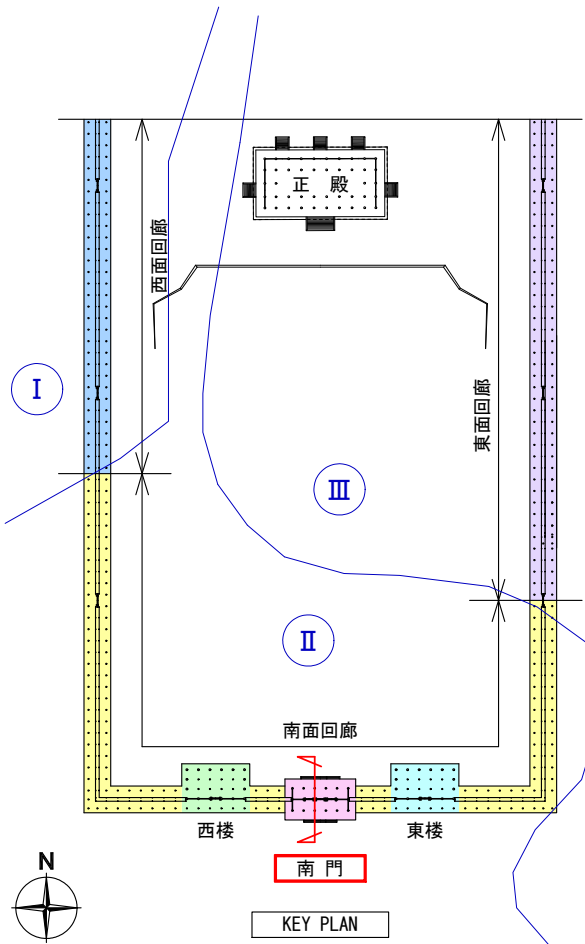
平成25年 10月 11日

003



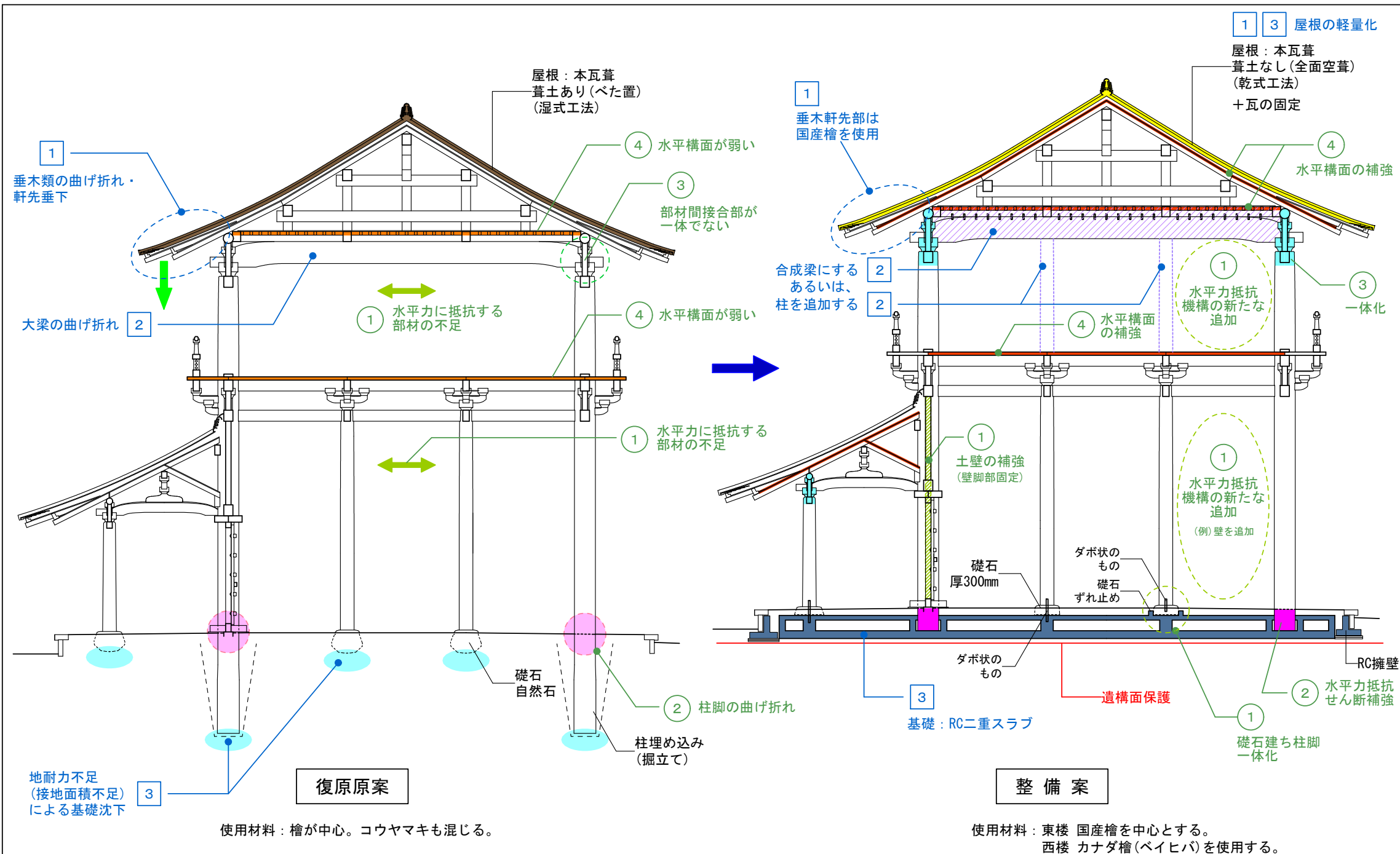
●与条件
・地盤：ゾーンⅡ

●特記事項
・構造補強は、出来るだけ見えないところで行う。
・補強材は、復原材と間違われることがないような素材を使用する。

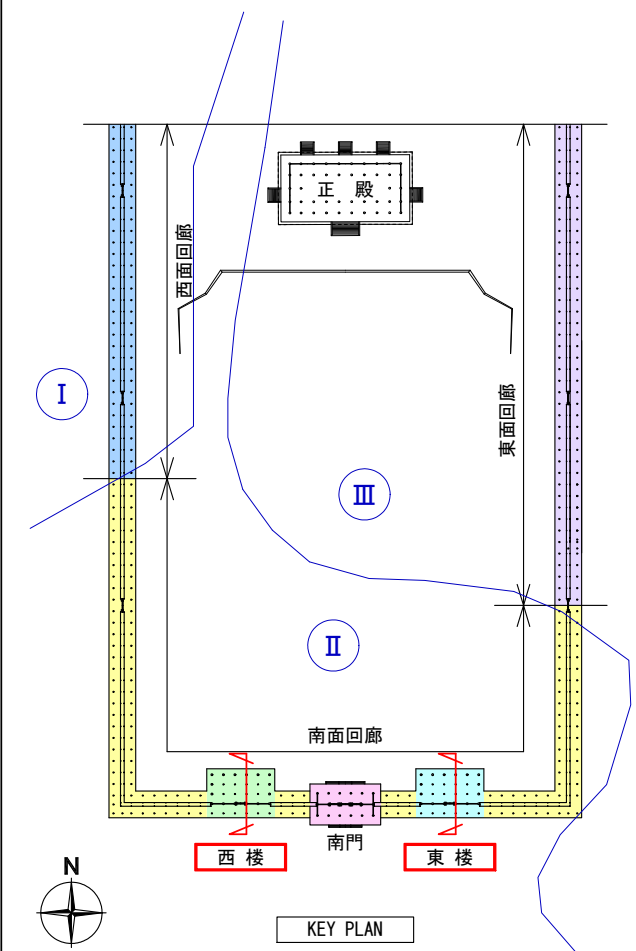


復原原案－整備案 比較図
南門

構造的課題（常時）	構造的課題（地震時）
1 垂木類の曲げ折れと垂下、尾垂木の滑動 ・屋根重量が大きいため、垂木類が垂れ下がる恐れあり。 2 柱盤の滑動 ・柱盤底が斜めのため、滑る恐れあり。 3 三の肘木の曲げ折れ ・柱軸力がかかるため、三の肘木が曲げ折れる恐れあり。 4 地耐力不足（接地面積不足） ・基礎が沈下する恐れあり。	1 水平力に抵抗する部材の不足 ・梁間方向、桁行方向とも壁が少ない。 ・礎石建ちである。 2 柱盤の滑動 ・柱盤底が斜めのため、滑る恐れあり。 3 二重部（上）の水平力を、初重部（下）へ伝える機構に欠点 4 部材間接合部が一体でない 例）柱－大斗、大斗－肘木 5 水平構面が弱い



- 与条件
 - ・地盤：ゾーンⅡ
 - 長期地耐力 東楼：50.0kN/m²程度
西楼：36.1kN/m²程度
- 特記事項
 - ・見え掛りになる部分に、壁などの補強が必要になる可能性がある。
 - ・補強材は、復原材と間違われることがないような素材を使用する。
 - ・二重部分の積載荷重に制限を設ける。
→上限100人(60kg/人)の入場制限を行う。

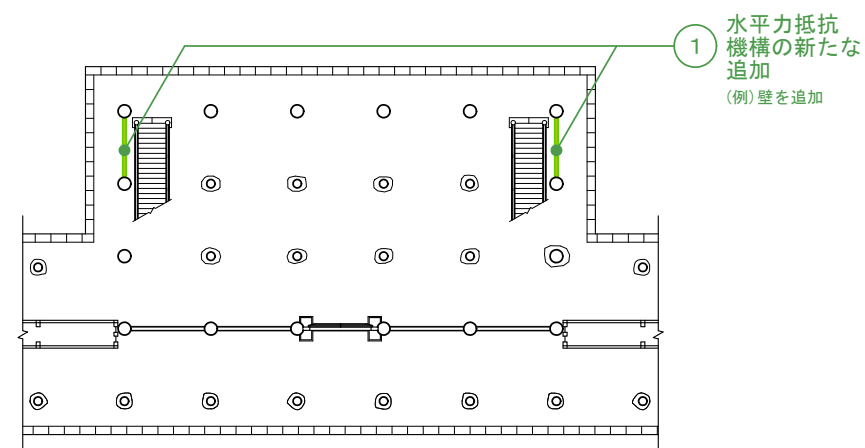


構造的課題(常時)

- 1 垂木類の曲げ折れと垂下
 - ・屋根重量が大きいため、垂木類が垂れ下がる恐れあり。
- 2 大梁の曲げ折れ
- 3 地耐力不足(接地面積不足)
 - ・基礎が沈下する恐れあり。

構造的課題(地震時)

- 1 水平力に抵抗する部材の不足
 - ・桁行方向：全壁が少ない。
 - ・梁間方向：小壁しかない。
 - 貴構造、掘立形式の抵抗機構しかない。
 - ・中柱が礎石建ちである。
- 2 柱脚の曲げ折れ
- 3 部材間接合部が一体でない
例) 柱一大斗、大斗一肘木
- 4 水平構面が弱い



整備案 一層平面図

復原原案—整備案 比較図

東楼

※西楼も東楼になろう。